

第14回長野東スーパーフレックス新校再編実施計画懇話会

日時：令和8年6月18日（木）

18時～19時30分

会場：県庁西庁舎111号会議室

次 第

1 開 会

2 挨 拶

3 会議事項

(1) 「第13回長野東スーパーフレックス新校再編実施計画懇話会」まとめ

(2) 今までの検討経過と今後のスケジュール（案）について

(3) 再編実施基本計画（案）について

(4) その他

4 諸連絡

5 閉 会

新校再編実施計画懇話会開催要綱

(目的)

第1 県教育委員会が、統合新校ごとの再編実施計画を策定するにあたり、再編対象校に加えて、対象校が所在する地域の意見を聴くため、「新校再編実施計画懇話会」(以下、「懇話会」という。)を開催する。

なお、懇話会は、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づき、法律又は条例により設置された附属機関ではないものとする。

(会議事項)

第2 懇話会は、次の事項について意見交換を行う。

- (1) 学校像、教育方針等に関すること
- (2) 校地・施設・設備等に関すること
- (3) 管理運営等に関すること
- (4) 教育内容等に関すること
- (5) その他、県教育委員会が必要と認める事項に関すること

(構成員)

第3 懇話会の構成員は、統合対象校の学校関係者(校長、教職員等)、地域の代表(自治体関係者、産業界の代表等)、同窓会、PTA、生徒の代表等とし、必要に応じ、県教育委員会が依頼する。

2 会議に座長を置く。

(開催期間)

第4 会議は統合新校が開校するまでの間、開催するものとする。

附 則

この要綱は、令和2年10月26日から施行する。

長野東スーパーフレックス新校再編実施計画懇話会 構成員名簿

※◎座長 ○新構成員

				(敬称略)
	区分	氏名	所属等	役職等
1	自治体	◎川上 忍	長野市	副市長
2		丸山 陽一	長野市教育委員会	教育長
3	産業界	塚田 まゆり	長野商工会議所	副会頭
4	学識経験者	◎茅野 理恵	信州大学学術研究院教育学系心理支援教育グループ	教授
5		小林 勝彦	長野県専修学校各種学校連合会	顧問
6	地域	◎百瀬 秀樹	長野地域振興局	局長
7		堀江 三定	長野市スポーツ協会	理事長
8		伊藤 羊子	一般財団法人長野県文化振興事業団 芸術文化推進室	室長
9		戸井田 由奈	特定非営利活動法人長野県NPOセンター	コーディネーター
10	同窓会 振興会	西澤 敏	長野東高等学校同窓会	会長
11		◎山口 茂	長野吉田高等学校戸隠分校同窓会	会長
12		鷲澤 幸一	長野高等学校定時制振興会	会長
13		塚田 篤雄	長野商業高等学校定時制振興会	会長
14		岡 正子	長野西高等学校通信制振興会	会長
15	PTA	◎高橋 桂子	長野東高等学校PTA	会長
16		若麻績 英亮	長野市PTA連合会(小学校)	副会長
17		石坂 晶子	長野市PTA連合会(中学校)	副会長
18	小中学校等 関係者	◎青木 忠文	長野市小学校長会(長水地区小学校長会)	会長
19		◎嶋田 勝彦	長野市中学校長会(長水地区中学校長会)	会長
20		丸山 勝己	長野支援学校	校長
21		◎塩入 孝一	県立高等学校長会定通部会長(松本筑摩高等学校校長)	会長
22	再編対象校	宮下 蓮生	長野東高等学校	生徒会長
23		宮尾 悟良		校長
24		◎西澤 博樹		教諭
25		中井 美希	長野吉田高等学校戸隠分校	生徒会長
26		◎山口 愛有未		副会長
27		内藤 信一		校長
28		丸山 淳一		教諭
29		齊藤 琉水那	長野高等学校定時制	生徒会長
30		◎佐野 浩一郎		校長
31		山本 俊介		教諭
32		奥山 陽生	長野商業高等学校定時制	生徒会長
33		山岸 蓮弥		生徒副会長
34		加藤 泰久		校長
35		◎丸山 正史		教諭
36		小林 華子	長野西高等学校通信制	生徒会長
37		亀山 虎太郎		生徒副会長
38	三輪 元子	校長		
39	◎檀原 賢裕	教諭		

【事務局】			※○新事務局員
学校名	氏名(役職等)		
長野東高校	(教頭)山本 丈治 (教諭)◎西澤 博樹 柳澤 秀樹 染谷 翔太		
長野吉田高等学校戸隠分校	(教頭)宮下 由夫 (教諭)丸山 淳一		
長野高等学校 定時制	(教頭)小出 一也 (教諭)山本 俊介		
長野商業高等学校 定時制	(教頭)◎塩野入和彦 (教諭)◎丸山 正史		
長野西高等学校 通信制	(教頭)◎櫻井 啓也 (教諭)◎檀原 賢裕		

	氏名	所属等	役職等
県教育委員会 事務局	柳沢 勝美	高校教育課 高校再編推進室	主幹指導主事
	土橋 邦彦	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事
	米澤 和真	高校教育課 高校再編推進室	主事
	◎駒込清太郎	学びの改革支援課 高校教育指導係	指導主事

第13回長野東スーパーフレックス新校再編実施計画懇話会まとめ(案)

日時	令和8年2月5日(木) 18時～19時30分		
場所	長野合同庁舎 5階会議室		
出席 (敬称略) (◎座長)	丸山陽一、◎茅野理恵、小林勝彦、坪井俊文、堀江三定、伊藤羊子、戸井田由奈、西澤 敏 山口 茂、岡 正子、若麻績英亮、石坂晶子、宮本由希子、丸山勝巳、中島秀明*、宮尾悟良 柳澤秀樹、中井美希、西川煌華、内藤信一、丸山淳一、齊藤琉水那、廣田昌彦、山本俊介 加藤泰久、小林華子、亀山虎太郎、三輪元子、古澤広人 (以上29名 *オンライン1名内数)		
欠席 (敬称略)	西澤雅樹、塚田まゆり、和田安雄、鷲澤幸一、塚田篤雄、服田 豊 小林克浩、宮下蓮生、奥山陽生、山岸蓮弥、寺嶋龍也 (以上11名)	傍聴	6名
事務局	長野東高校	山本教頭(事務局長)、柳澤教諭、栗原教諭、染谷教諭	
	長野吉田高校戸隠分校	宮下教頭(副事務局長)、丸山教諭	
	長野高校定時制	小出教頭、山本教諭	
	長野商業高校定時制	島崎教頭、寺嶋教諭	
	長野西高校通信制	宮坂教頭、傳田教諭、古澤教諭	
当日資料	懇話会会議資料(次第、構成員名簿、第12回懇話会まとめ、資料1-1～資料3-2)		

会議事項

- (1) 第12回長野東スーパーフレックス新校再編実施計画懇話会まとめ
- (2) 再編実施基本計画(案)について
- (3) 学びのイメージに係るグループワーク

主な内容(○意見及び質問等 →県教委)

【会議事項】

(1) 第12回長野東S F新校実施計画懇話会まとめについて

事務局から説明

○意見・要望なし

(2) 再編実施基本計画(案)について

県教育委員会から、再編実施基本計画の策定に係る内容に関して懇話会資料P5～P8をもとに説明。

○設置課程については、従来の基本計画の内容では新しいタイプの学校が設置されることが認識しづらいと考える。フレックス型(制)に関する内容等を明記していただきたい。

➡検討する。

○施設整備について、県として現段階でどのくらいの規模で整備を予定しているのか可能な範囲でお聞きしたい。

➡懇話会において意見交換を重ねながら、新校の学びに必要な施設を整備するとともに、既存施設の著しい老朽化と社会や学びの変化を踏まえ質的向上に関して検討をする。

(3) 学びのイメージに係るグループワーク

県教育委員会から、懇話会資料P9～P10をもとにグループワークテーマについて説明

① 「柔軟に学べる仕組みについて」の意見

- ・資料3-2に示すように完全自由選択を基本としつつも、1年次は学校生活の基礎を定着させるチュートリアル期間として、時間帯の枠組みを設定すべきではないか。
- ・資料3-1にあるように、1年次は所属有で2年次以降は自由に選択ができると良い。
- ・入学後すぐに所属が無く幅広い時間帯の科目選択を生徒自身が考えるのは困難ではないか。
- ・1年次は履修(科目選択)について丁寧な説明・支援が必要ではないか。
- ・時間帯や科目選択のモデルコースを提示することで、3年もしくは4年間での卒業を生徒が選択しやすくなるのではないか。
- ・資料3-1の仕組みでの募集は従来の定時制の形であるため、S F新校は資料3-2の仕組みで募集をして、必修科目の設定時間帯について配慮して、生徒が一斉に集まる時間帯を設定することで、生徒同士の交流の時間も担保でき絆も深まるのではないか。

② 「フレキシブルで多様な学びを支えるシステムについて」の意見

- ・実社会(進路選択)に繋がる学びとして、簿記・職場体験・アルバイト的活動や戸隠フィールドにおける地域と連携した学校外での学び(体験学習やボランティア活動等)を単位認定するなど。

- ・外部人材の方々が生徒の良さを多角的な視点で評価することも生徒の成長に繋がるのではないかな。
- ・スポーツ・文化芸術活動を通して、体を使いながらのインクルーシブ教育が必要であり、その経験をもとに個々の生徒のニーズに合ったプログラムを考える事も必要ではないかな。

③ 「メンタルサポートについて」の意見

- ・学校が生徒の心の拠り所(居場所)となり、様々な分野(学習・スポーツ・芸術)の活動や将来のキャリアについて、複数のチューター的存在の大人にいつでも相談できる環境が必要。特にメンタル面で、気心の知れた大人がいることが、生徒の心の安心に繋がる。
- ・生徒同士の絆をどう担保するかは重要と考える。例えば、学校の中に生徒同士が交流できるようなカフェ的な施設があり、生徒が自分たちで運営してもよいのではないかな。また、人と関わることが苦手な学校外の職場体験に参加できずアルバイトにも行けない様な生徒でも学校の中のカフェで友達と一緒にいたらそこでアルバイトのような体験もできるのではないかな。
- ・保護者が気軽に相談できる環境の整備が必要。例えば、発達障害等について、どこに相談すればよいかを明確にして専門的なアドバイスができる体制の整備。

④ 「その他」

- ・長野工業の夜間定時制が工業科から普通科へ転換するならば、長野東 SF は昼間の時間帯をメインにしてもよいのではないかな。
- ・特別活動(文化祭・部活動)を通してコミュニティ(クラス的な)のまとまりを創れるのではないかな。
- ・例えば芸術家やスポーツ選手を目指す生徒から、不登校経験があり集団生活を苦手とする生徒まで、フレックスの仕組みを活用することで、幅広い層に対応できることが理想であるが、本当にその学びが実現できるのか。
- ・資料8 ページで示された「育成したい生徒像」や「学びの方向性」がある一方で、多様な生徒が集まる上で、あえて学校が方向性を強く打ち出さないことも一つの特色になるのではないかな。多様な夢や生き方がある生徒たちに、学校が一つの型を押しつけすぎないことも大切ではないかな。
- ・現在、戸隠分校では地域の大人と関わりながら地域と密着した活動をすることで、多様な背景を持つ生徒が成長している。今後においても戸隠校舎を使用(希望する生徒は戸隠へ通学する)して可能な科目は遠隔授業で受講する。SF本校舎の生徒は体験学習を戸隠で行うなどの形で相互の校舎を利用することはいいかがか。
- ・小規模定時制を集約することが本当に生徒にとって良いのか。
- ・県としての長野県初となる新しい学校をつくる覚悟が明確になれば、より具体的な意見交換に繋がるのではないかな。

【座長まとめ】

・今回の意見交換では、特に生徒さんのグループにおいて様々な意見やアイデアが出されていた。一番印象に残ったのは「この新しいフレックスの仕組み最高じゃん」という言葉である。また、フレックスな仕組みを生かして様々な分野の体験的な学びが単位認定されることが、自分の将来の進路に繋がるとよいなどの具体的な意見も出されていた。構成員の皆様の様々なアイデアを今後もいただきながら、新校の学びについてより深めていければよいと考える。また、県として新しい学校づくりをどこまで本気で行っていく覚悟があるのかというご意見もいただいたが、本日のグループワークの内容も含めて、県として今後の方針についてご検討をいただきたい。

その他

【次回】

日時：令和8年4月以降

会場：長野県庁西庁舎 111 号会議室

内容：長野東スーパーフレックス新校再編実施基本計画について

長野東S F新校（仮称）再編実施計画懇話会について

懇話会の目的

県教育委員会が、再編実施計画を策定するにあたり、対象校が所在する地域の意見を聴くため

検討事項

Step1 目指す学校像、設置課程・学科、募集学級数、募集開始年度、活用する校地・校舎

→ 「再編実施基本計画」

Step2 学校教育目標、教育課程、施設・設備、校名、校歌・校章 など

開催期間

新校が開校するまで

長野東S F新校（仮称）再編実施基本計画

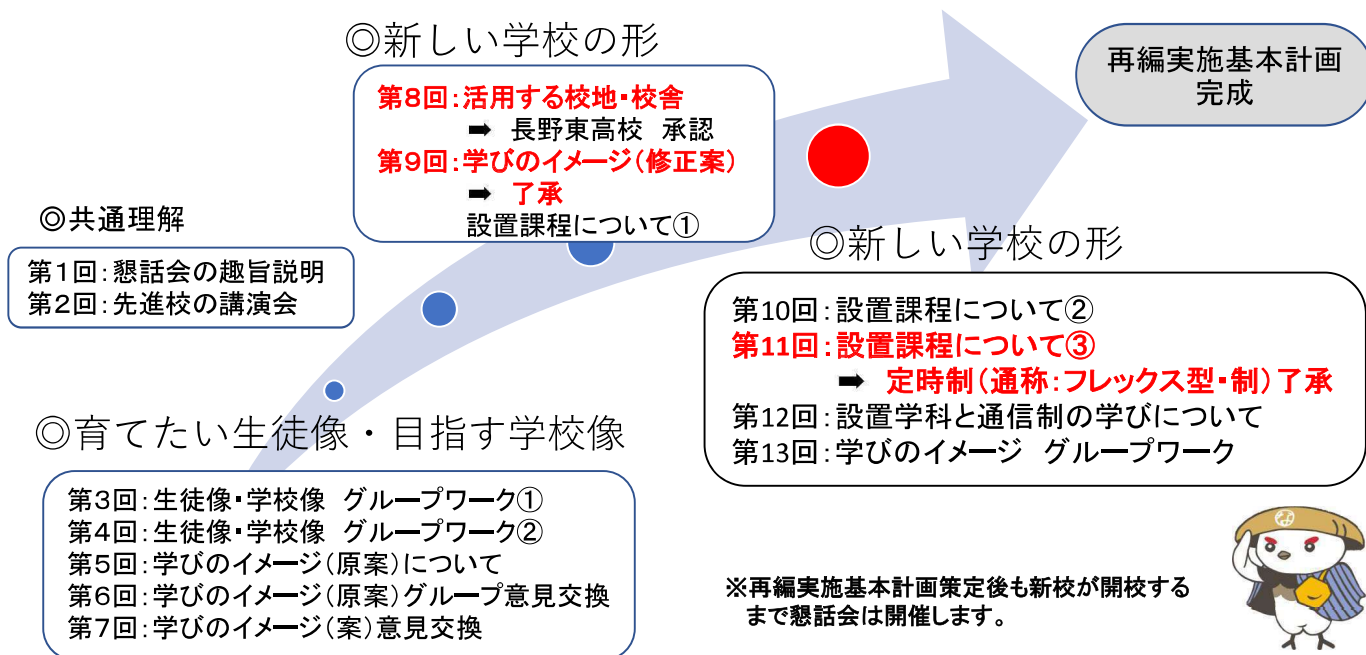
- 1 再編統合対象校 → 長野東高等学校(全日制)、長野吉田高等学校戸隠分校(定時制)、長野高等学校(定時制)
長野商業高等学校(定時制)、長野西高等学校(通信制)
- 2 募集開始(開校)年度
- 3 活用する校地・校舎 → 長野東高等学校
- 4 設置課程・学科及び想定する募集学級数 → フレックス制(定時制課程・○○学科、通信制課程・○○学科)
- 5 統合新校の学びのイメージ
- 6 施設整備

第8回懇話会(R6.11.26)で了承済み

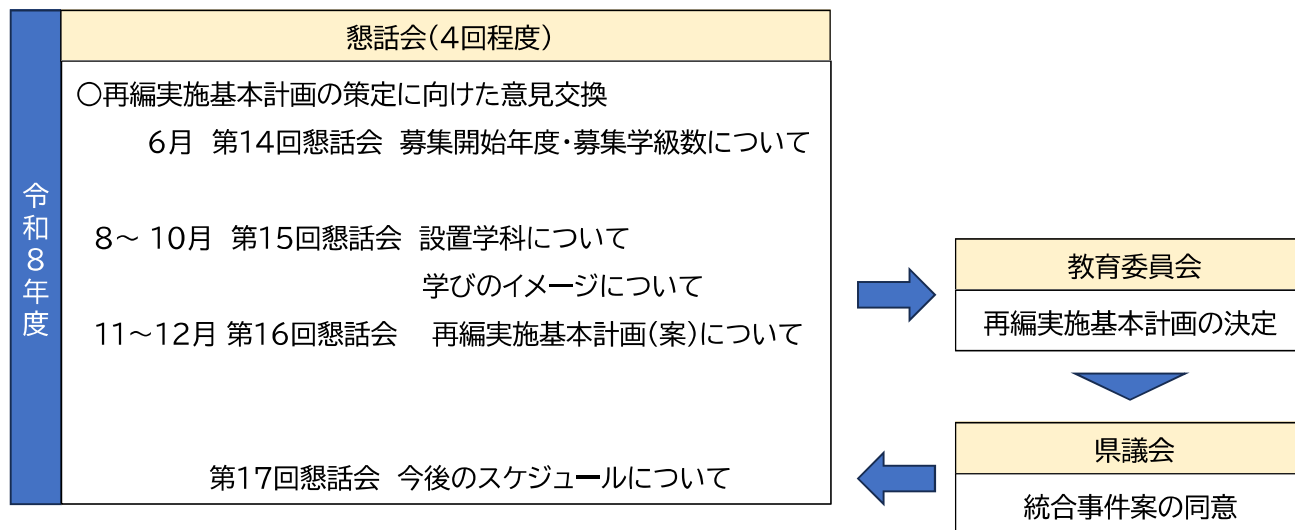
第11回懇話会(R7.11.25)で了承済み

第3回懇話会(R5.12.19)以降、継続検討中

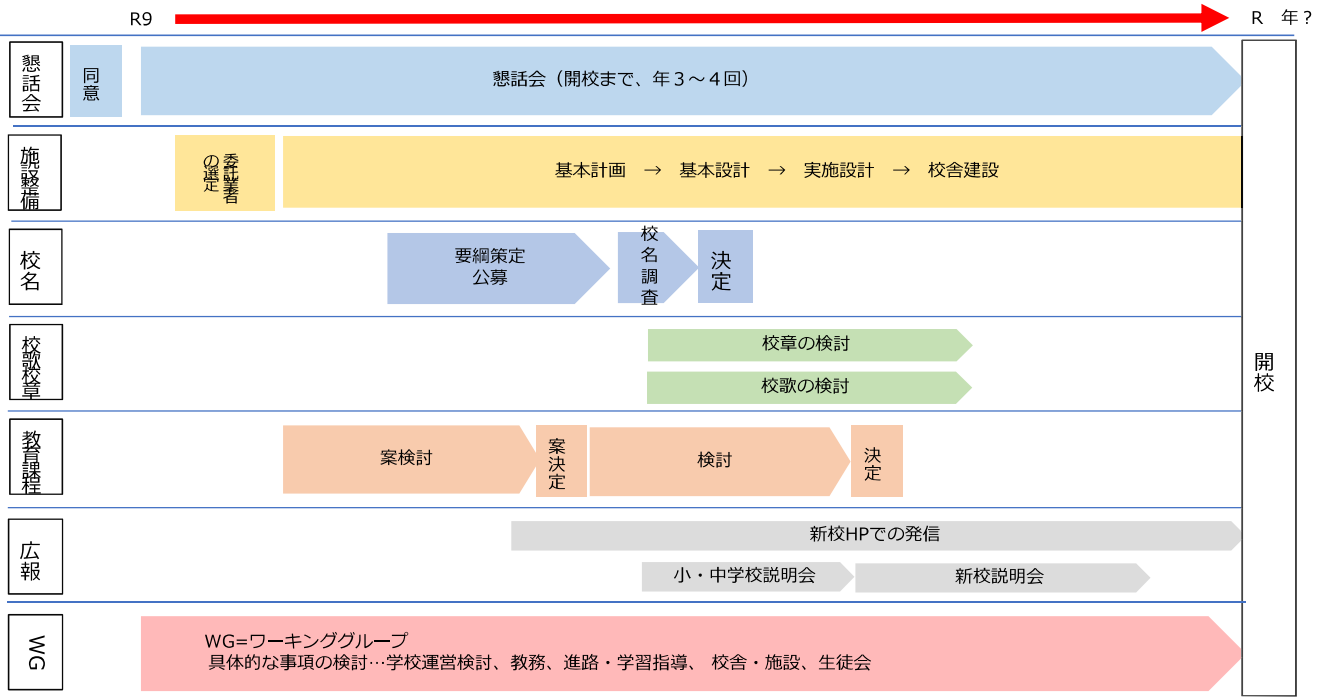
「長野東S F新校（仮称）再編実施基本計画」 検討経緯



「長野東S F新校（仮称）再編実施基本計画」 策定スケジュール（予定）



「長野東S F新校（仮称）」開校までのロードマップ（イメージ）



長野東スーパーフレックス新校(仮称)再編実施基本計画(案)

1 再編統合対象校

長野東高等学校(全日制)、長野吉田高等学校戸隠分校(定時制)、長野高等学校(定時制)
長野商業高等学校(定時制)、長野西高等学校(通信制)

2 募集開始(開校)年度

令和_____年度

3 活用する校地・校舎

長野東高等学校

第8回懇話会においてご了承済

4 設置課程・学科及び想定する募集学級数

フレックス制

(定時制課程 _____ 学科 _____ 学級程度)

(通信制課程 _____ 学科 募集定員 _____ 名)

※学科の名称は、今後編成する教育課程等に基づき、開校前年度に決定する。

※新校開校時の募集学級数は、毎年度定める「長野県立高等学校生徒募集定員」により開校前年度に決定する。

第11回懇話会においてご了承済

5 統合新校の学びのイメージ

別紙のとおり

第3回懇話会(R5.12.19)以降、継続検

6 施設整備

・新校の学びに必要な施設を整備するとともに、既存施設の著しい老朽化と社会や学びの変化を踏まえ質的向上を図っていく。

・施設整備に要する期間は _____ 年程度を想定。

自分らしく学び、「なりたい自分」へ

～夢を探し、追いかけて、かなえる「スーパーフレックス新校」～

目指す学校像

- 一人ひとりにあった学習スタイルと共に高め合う活動を通じ、学びに向かう力を育む学校
- 柔軟に学べる仕組みを活かし、自己理解を深め、学校内外でやりたいことを探し、追求できる学校
- 地域資源を活かした産学官連携のもと社会とのつながりを深め、自らの選択で行動できる力を伸ばす学校

育成したい生徒像

- 夢や目標に向かって主体的、意欲的に学び、挑戦していく生徒
- 多様な生き方を尊重し、豊かな人間関係を構築していく生徒
- 社会の一員としての責任を果たし、自分らしい未来を考え行動していく生徒

フレキシブルで多様な学び

◆学びを創る 探究学習

課題を見出し解決に向けて考察する。

▶ 探究をカリキュラムの中心に据えた「学び合う」学び
～対話のある活動を取り入れた授業～

▶ 地域共学共創コンソーシアムと連携した様々な講座の開設
～豊かな自然環境や人財を活かした実践的・探究的な授業～

▶ 学校設定教科「キャリアデザイン（仮称）」を入学年次に全員が受講
～人に出会い、自分らしい未来のために必要な学問（学び）を見つけるための授業～

柔軟な学びの仕組みを活かした多彩な単位認定

◆学びを深める 高大等連携プログラム

上級学校や研究機関の知見に触れる。

▶ 大学や専門学校等で受けた授業を卒業単位として認定

▶ 様々な研究機関や団体等と連携した校内外での探究的活動を卒業単位として認定

◆学びを広げる キャリア教育

社会人・職業人としての自立に向けて、地域や産業界と協働する。

地域をフィールドにした実践的な授業の設定

- ・ボランティア活動
- ・長期インターンシップ
- ・アカデミックインターンシップ研修（大学等の研究や授業体験）
- ・デュアルシステム（学校での授業と企業での就業体験を並行して行う職業教育）
- ・**アントレプレナーシップ教育プログラム（起業家的行動能力の育成）**

▶ 留学、部活動、サークル活動等の自主的な活動を地域と連携し、学校全体で支援

フレキシブルで多様な学びを支えるシステム

学校生活全般に関わるシステム

- 無学年制
- 2学期制（前期・後期）
- 学期ごとに単位認定
- 9月卒業・10月入学も可能

- 併修可能
- 転籍可能

職員+地域人財を活用したアドバイザーによる支援

- 自主的活動や進路をサポート
 - ・進学、就職
 - ・留学
 - ・探究活動
 - ・部活動、サークル活動
 - ・ボランティア活動 など

- メンタルサポート
 - ・スクールカウンラーの配置
 - ・大学や福祉機関・医療機関と連携

地域共学共創コンソーシアム



大学・専門学校
幼保小中高



医療・福祉機関



地域企業・産業



地域

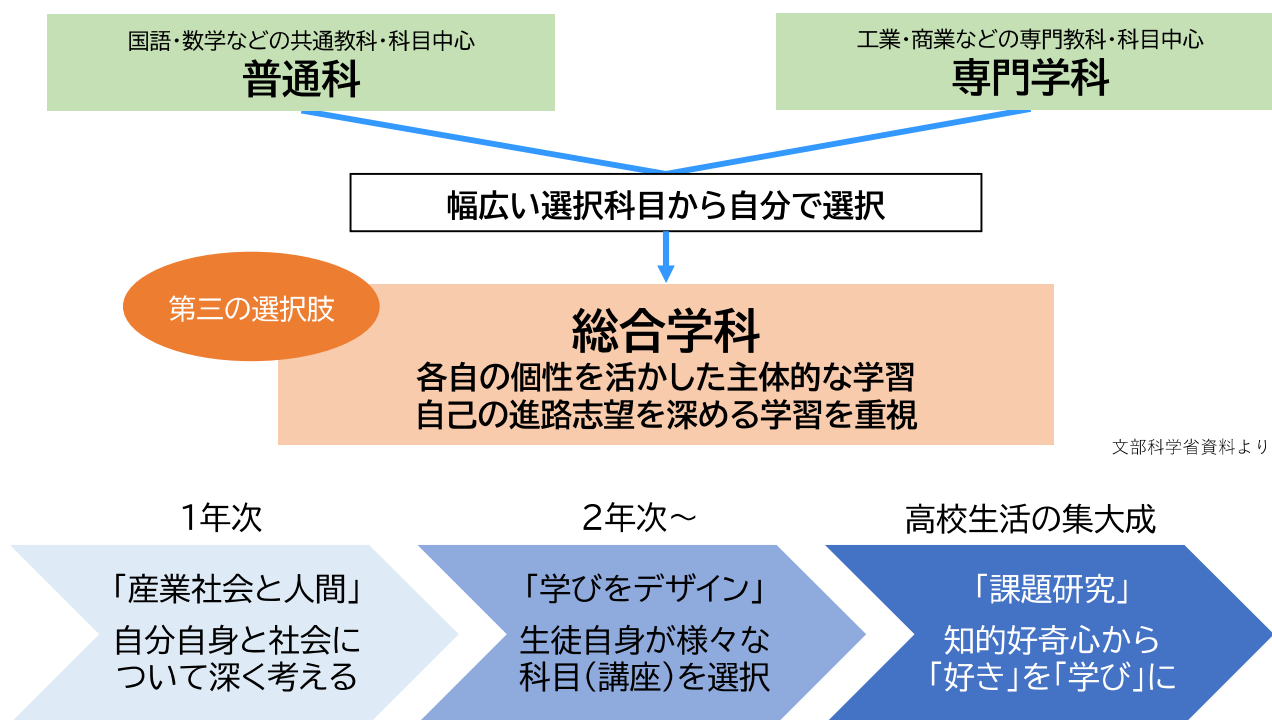


自治体

長野東S F新校（仮称）設置学科について①

○「普通科」と「総合学科」のいずれかの設置を検討中

総合学科



長野東S F新校（仮称）設置学科について②

	普通科	総合学科
学びの特徴	基礎的・汎用的な学び	個性を活かした主体的な学び
教育課程の自由度	中程度 「学校設定科目」を卒業単位として認定できるのは20単位まで	自由度が高い 制限なし
メリット	・科目選択が分かりやすい ・教員配置や時間割編成が容易	・学習意欲を高めやすい ・多様なニーズに応えやすい
デメリット	・学びが画一的になりやすい ・多様な進路への対応が難しい	・科目選択が複雑 ・教員配置や時間割編成が難しい

<多様な学校設定科目の例>

- 学び直し&TOKOTON・・・国語、数学、英語、理科、社会 など
- スポーツ・芸術・・・実践スポーツ、実践音楽、映像表現、演劇概論、伝統芸能 など
- 情報・探究・・・AI活用基礎、スポーツ文化探究、戸隠探究、博物館探究、6次産業食育 など
- ライフスキル・・・SST基礎、介護福祉基礎、社会福祉基礎、農業実習 など

新校でのフレックスな仕組みの例 その1

- 定時制(多部制)と通信制の機能を併せ持つこれまでにない学びを可能にする
- **2年次以降**は1時限～12 時限の幅広い時間帯を自由に選択できる柔軟な学びの仕組み
- 通信制との併修によるフレキシブルな学びが可能
- 幅広い選択科目から興味・関心や進路などに合わせて自由に選択。(必履修科目以外)

時 限		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1年次	I 部	所属履修				併修(受講)可能							
	II 部	併修(受講)可能				所属履修				併修(受講)可能			
	III 部	併修(受講)可能								所属履修			
2年次	時 限	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	共 通												
3年次	時 限	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	共 通												
4年次	時 限	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	共 通												



通信制との併修

新校でのフレックスな仕組みの例 その2

- 定時制(多部制)と通信制の機能を併せ持つこれまでにない学びを可能にする
- **1年次から**1時限～12 時限の幅広い時間帯を自由に選択できる柔軟な学びの仕組み
- 通信制との併修によるフレキシブルな学びが可能
- 幅広い選択科目から興味・関心や進路などに合わせて自由に選択。(必履修科目以外)

1年次	時 限	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	共 通												
2年次	時 限	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	共 通												
3年次	時 限	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	共 通												
4年次	時 限	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	共 通												



通信制との併修